

満州400年の歴史が積み重なった街

満州の中心都市 **瀋陽**



故宮 政務が執り行われた十王亭

いまから400年前、この街は後金(後の清帝国)の都として歴史の表舞台に登場します。

後金を興した女真族のヌルハチ(清の太祖)は、1625年、盛京と呼ばれていた瀋陽を都に定め、明の都である北京を模して、新たな都を建設しました。

その後、明の滅亡に伴い、後金は北京に都を移して中国全土を支配下におきます。

盛京(瀋陽)には奉天府とよばれる地方機関が置かれ、首都に次ぐ重要都市と位置づけられ、日本はこの地を奉天と呼ぶことになります。

瀋陽には、初代皇帝ヌルハチと二代ホンタイジ(太宗)の陵墓がおかれ、清朝の歴代皇帝にとって大きな意味をもつ都市だったのです。

ヌルハチの故宮はきれいに復元されています。その建物は、構造的には木骨煉瓦造のようです。重厚で無骨、ややもすると、無愛想な煉瓦倉庫のようにも見えます。

基礎は石積み、外壁にはレンガ、屋根には陶器瓦を多用して、部分的に陶版貼りや銅板も見られます。木製梁柱は極彩色で塗られ、日本で一般的な漆喰塗りなどは見られません。



故宮 玉座のある崇政殿



故宮 復元された大東門

まちあるきの考古学

その優美さは 新しい時代の到来を告げるものでした



ヤマトホテル（現遼寧賓館）の階段室

優美な曲線の木製階段手すりと漆喰塗り込め壁。ステンドグラスからは柔らかな光が射し込む、静寂のなかの上品な内部空間です。

従来の西洋古典建築をベースに、新たに上質な空間を生み出そうとする、往時の日本人建築家の気概を感じます。



旧ヤマトホテル ロビー

満鉄奉天駅は故宮から2～3km離れて設けられました。日露戦争の戦勝国日本は、奉天駅と故宮の間に広大な鉄道附属地を設定して、ほかの満州諸都市と同じように、満鉄による都市建設を進めます。

方形に区割りされた街路網に対して、奉天駅（現瀋陽南駅）から円形広場に向かって斜めに街路が伸びる、バロック式都市計画がここにも実現します。その一つ、奉天大広場（現中山広場）には、ヤマトホテル（現瀋陽ホテル）や東洋拓殖銀行など、重厚な西洋古典建築が建ち並びました。

ヤマトホテルは、外壁に白いタイルを貼り詰めています。その外観は、人々の目に新しい時代の到来を告げるモダンな姿に映ったと思います。

奉天大広場以外にも、往時の日本資本による西洋古典建築が、街中にたくさん建築されたようです。東北地方の中心地の瀋陽では、その後の経済発展に伴い、スクラップアンドビルドが進んだため、当時の建築物はそれほど数多く残っていないように感じました。



中山広場に建つ旧ヤマトホテル
白タイル貼りの外観は斬新でした



旧満州中央銀行 千代田支店



旧東洋拓殖銀行奉天支店



旧藤田洋行ビル

中国人の無関心と強かさが凝縮した街 瀋陽

瀋陽は中国東北地方(旧満州)の中心都市です。中心部には巨大なショッピングモールがあり、新宿や渋谷と同様の喧騒が通りを覆っています。店頭でマイクを通して聞こえる不愉快なほどの大声は、物欲の強い国民を象徴しているようにも感じられます。

瀋陽市の人口は800万人を超えています。ただ、市域面積13,000平方キロは東京都の6倍で、これを「市」と訳すには無理があるようにも感じます。さほど大きくない繁華街は人で溢れていましたが、日本ほど都心に群がる傾向は強くないようです。800万都市の繁華街としては狭すぎるようです。

瀋陽は巨大な田舎街、だと言えます。高層建築が林立してはいるものの、埃っぽく、大雑把で、野暮ったい。急激な発展を遂げる中国地方都市のプロトタイプではないかと思いました。



瀋陽中心街



人で溢れるショッピングモール



廃墟の地下道入口 日常的風景に慣れた人たち

メインストリートから一筋外れると、信じられない光景が広がります。

歩道の舗装や排水口はガタガタで、補修されないまま放置され、日常的なメンテナンスや清掃が全くされていません、使われていない地下道の入口は廃墟の様相で、立入り禁止の安全対策もされないまま放置されていました。その横を歩き過ぎる若者には目に入らないのか、全く無関心に行き過ぎていきます。

日常的な風景なのでしょう。人たちは、国や地方自治体などにまったく期待していない、そう感じました。

もうひとつ、中国東北地方(旧満州)を旅して思うことがあります。それは、中国人の強かさ。

日露両国は、人の国で勝手に戦争を始めて、戦勝国が国威高揚のために勝手に数多くの建築物で街を埋め尽くしました。戦後は、跡形もなく取り壊されて当然のものばかりですが、過去の憎むべき歴史遺物を、彼らはいま、観光資源として活用しています。

日本の満州支配の象徴とも言える建物が多数現存してる中山広場、その中心には民衆を先導する毛沢東がそびえたちます。

歴史に深く関わった日本人にとって、それは複雑な思いを抱く場所でした。



中山広場
民衆を先導する毛沢東